

宇佐史研究

複刊才二号(才二四卷二
・三号才二五卷一号)

注目されつゝある「宇佐史研究」の才三号が
発刊された。この会は宇佐文化の研究の推
進の為に全国の宇佐史研究家を動員し、同時
に郷土の人を含めた唯一の研究機関誌である
本号は経費の關係で三号の合集になつたとい
つてゐるが、次のような研究がみられる。

宇佐宮行幸伝

岡 為造

九州に於ける名の性格變化について

橋本 操六

中世村落における神人の発生

—宇佐八幡木好氏をめぐつて—

中野 幡能

等がある。

因みにこの会は多数の同好者の入会を待つ
てゐる。会費三百円雑誌年三回発行、発行所
大分県立教育研究所内宇佐地方史研究会

会 報

本会の才三回大会は去る六月十七日(日曜)
(大分市金池町大分市中央公民館において、

新刊紹介

多数の参会者を一堂に会し、多くの研究が発
表され、午後別府教授岡本良知氏の特別講演
が行われ、絶賛に浴した。最後に昨年度会計
経過報告が行われ本会は盛会の内に終了した
なお、研究発表は午前十時半より一時頃ま
でかゝり、昼食後特別講演・会計報告があり
四時過ぎ散会した。
当日の研究発表及び特別講演は次の通りで
ある。

研究発表

一、仁聞菩薩について

県立教育研究所員 中野 幡能

二、地名「牛踏」について

県立舞鶴高校教諭 染矢多喜男

三、唐申信仰の歴史

大恩寺中学教諭 芦荻 政治

四、杵築地方の新田開墾について

浅野 勝

五、背の洞門について

県文化財専門委員 山本 聰治

六、新発見のキリシタン墓について

大分大学助教授 半田 康夫

特別講演

宗麟没後の義統行状の一斑

別府大学教授 岡本 良知

編集後記

予定していた原稿の
到着が遅れたり、お願
い原稿が来なかつたり、意外に発刊が遅れ
てしまつた事をお詫びします。本号からつい
に二段組になつてしまつた事は残念です。し
かし内容は益々充実したもののにもつて行きた
いと思ひます。燈火親しむの候会員の皆様の
御健闘を祈ります。
(中野)

昭和三十一年十月十五日 印刷

昭和三十一年十月十五日 発行

年会費 三〇〇円

分売は本号に限り 頒価 一〇〇円

大分県地方史研究会

編輯兼 代表者 渡 辺 澄 夫

印刷人 高 井 久 雄

大分市上野 電話一七七五番

印刷所 三恵印刷株式会社

大分市駄原 大分大学

学芸学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替口座下関五二九四番)